

拳母神社

豊田市中心部にある拳母神社は、古くから住民の精神的・社会的生活に重要な役割を果たしてきた。創建は12世紀とされ、江戸時代（1603～1867）には拳母藩の大名の庇護を受け、臣下・町民の崇拝を集めた。現在も年間を通して参拝者が訪れるが、最も賑わうのは、巨大な山車が境内に展示され、街中を練り歩く「拳母まつり」の時である。

拳母神社の前身は、この地を通っていた武士が、主人の死の知らせを受けたことに始まると言われている。その武士は、任務を放棄して静かに一生を終えようと決めた。彼の故郷である吉野（現在の奈良県）に水の女神であるミクマリが祀られていたが、この神様を祀った神社を川のそばに建てたとされる。ミクマリに代わって子供の守護神である子守大明神が祀られるようになったのは、名前の響きが似ているからかもしれない。拳母神社という名称は、この地の旧名、現在の愛知県東部にあった拳母藩にちなんだものである。

拳母神社は、現在も子守神を祀っており、子宝の守り神として信仰されている。新生児の通過儀礼である「宮参り」や、3歳、5歳、7歳の子供の成長と健康を祝う「七五三」など、子供を連れてくる人が多い。本殿のほかに、稲作・農業・商売繁盛の神である稲荷、学問・芸術の守護神である天神、火の神である秋葉などの摂社がある。

この神社では、年に一度、10月の第3週末に壮大な「拳母まつり」が行われるが、元々は薬師如来を祝う小さな月例祭もある。毎月8日には、境内に鉢植え、衣類、日用品、飲食物など100以上の露店が並ぶ。